

パネルディスカッション

「カプセル内視鏡の施行法・施行支援・読影支援の現状と課題」

司会 加藤 智弘（東京慈恵会医科大学内視鏡科）

渡辺 憲治（富山大学炎症性腸疾患内科）

2007年に小腸用カプセル内視鏡の保険適用が本邦で承認されて、20年近くが経過した。その間、カプセル内視鏡は機器として種々の発展を遂げ、今も進化を続けている。また各種疾患の診療や病態把握、解明にも寄与し、本邦を含め様々な知見が発信されてきた。一方で、臨床現場での検査施行、読影の支援を含めた工夫は如何だろうか？低侵襲検査のメリットを活かしつつ、精度向上、効率化、負担軽減などの工夫が図られていると思われ、AIの更なる貢献も期待されている。本パネルディスカッションでは、こうした real world の工夫や検討から、challenging な試みまで幅広く協議して参りたい。独創的な演題を含め、期待している。